AMDA
多様性の共存
ジャーナル

2022 年 4 月 25 日　VOL.45　第 301 号　定価 550 円
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709　口座名：特定非営利活動法人アムダ

2022 年
春 号
春

救える命があればどこまでも

ウクライナ避難者緊急支援活動

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫　http://amda-hyogo.com/

AMDA は、2 月末に発生したウクライナにおける人道危機により、戦火を逃れたウクライナ人避難民を対象にハンガリーで緊急支援活動を実施しています。周辺国に避難した人の数は 4 月 18 日の時点で約 498 万人とされており、ハンガリーに逃れた避難民の数は 47 万人に上ります。

こうした状況の中、AMDA では、3 月 7 日よりオランダ在住の日本人医師 1 名をハンガリーへと派遣し、現地国立センメルワイス大学に通う日本人医学生 1 名の協力を得て、ニーズ調査を開始しました。その後、3 月 9 日に徳島県を拠点とする特定非営利活動法人 TICO と合同医療チームを結成し、医師 1 名、看護師 1 名、調整員 2 名を日本から派遣しました。

現地協力団体に物資輸送用の車両を寄付

ハンガリー入りした一行は、現地協力者からの紹介を受け、ウクライナとの国境に近いベレグスラーニー村（Beregsurany）などで活動を開始。地元の医療従事者とともに避難民を対象とした医療支援を行いました。その後も順次医療者を現地へと送り、4 月 18 日までの累計派遣者数は医師 5 名、看護師 2 名、調整員 2 名の計 9 名を数えます。

同時に、現地協力団体『カルパッチヤハウス』(Karpatalja Haz）を通じて、ウクライナの病院や施設に医薬品や生鮮食品等を含む物資を贈りました。この際、同団体がウクライナへの物資輸送にレンタカーを使用していたことから、合同チームは事態の長期化に鑑み、乗用車 1 台を寄贈しました。このほか、ウクライナ人医師が祖国に戻って診察を行うことを想定し、日本から持参したポータブルエコー（携帯用の超音波診断装置）を寄贈しています。

4 月 18 日現在、医師 1 名と看護師 1 名が現地の日本人学生 3 名とともに活動を継続しており、流動的なニーズに対応した長期的支援の調整ならびに医療支援などを行っています。　（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

寄稿

『ウクライナ避難民支援』

特定非営利活動法人 TICO 代表理事　**吉田　修 医師**

活動地ザホニー（Zahony）の駅舎で避難者を診察する TICO 吉田医師

「ロシアがとんでもない戦争を始めたため、ウクライナからとんでもない人数の避難民が周辺国に脱出し始めた。なんとも不快な『もどかしさ』を感じていた時、AMDA がハンガリーで避難民支援を行うとのメールが届いた。早速、菅波代表に電話したところでは AMDA ＋ TICO 合同でやろうということになり、第 2 陣として我々が派遣されることとなった。ハンガリー到着後、多くの方にご協力をいただき国境二ヶ所で医療支援チームに加わることとなった。

現場では、ハンガリーの人々が寛大に無条件で避難民を受け入れており、開戦からわずか二週間で官民一体となって体制を整えていた。簡素な行政手続き、輸送、食事、宿泊、支援物資、医療も無料で提供されている。その後、続々とヨーロッパ各地から様々な NGO も支援に訪れた。EU の壮大な理想を感じた。

ハンガリーの医師たちと第三次世界大戦の可能性について議論した。ちょっとしたきっかけで NATO との戦争に拡大する可能性がある。また、ロシアが生物化学兵器、戦術核兵器に手を出す可能性も指摘されている。この馬鹿げた戦争は 20 年以上権力を掌握した独裁者プーチンが始めた。ロシアにも個人の自由、言論の自由が保障された憲法がある。しかし言論は統制され情報は歪められナショナリズムが煽られ、戦争に突き進んだ。独裁の気配を察知し早期に目を摘む、質の高い民主主義が肝要である。戦争に勝者はいない」

岡山県教育委員会 World Wide Learning コンソーシアム構築事業で AMDA 菅波茂代表と佐藤拓史医師が講演

文部科学省の採択事業として、岡山県教育委員会は、未来の岡山と世界の＊ウェルビーイングの実現に貢献するグローバル・リーダーの育成を目的とした『World Wide Learning コンソーシアム構築支援事業』を実施しています。これは、岡山県操山中学校・高等学校を拠点校として、その他 9 校の県立高校と県立中等教育学校、海外姉妹校 1 校がネットワークを作り、岡山県下の大学、自治体、企業、NGO と連携しながら、高校生自らが考え、学び、主体的に行動し、責任を持って社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーの育成を目指すものです。参加生徒は、課題研究などに取り組み、相互交流等を通じて、すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福な社会の実現のための方策について探究を深めています。

この事業の一環として、事業協働連携機関である AMDA から、2 月 12 日、佐藤拓史医師が、オンラインでつながった拠点校、連携校の高校生たちに「ウェルビーイング」と題し、講演を行いました。岡山県立岡山大安寺高校出身で世界各国での様々な活動経験を持つ佐藤医師は、これまでの人生の中で影響を受けた恩師との出逢いや、自分に何ができるのかを考え続けた日々を通しての様々な想いを語りました。 佐藤医師が生徒たちに伝えたかったことは、それぞれの経験の中で「想像力と深く考えることの大切さ」でした。「人生は選択肢に溢れている」、「思い込みを越えたところに新しい可能性が広がっている」、そして「人生の最期までどのように生きるかは自分で決められる」というメッセージが込められていました。

また、3 月 5 日にオンラインで行われた、『Well-being フォーラム』では、午前中の課題研究発表会に続き、AMDA 菅波代表が「『限りなき挑戦、夢を求めて海外に舞い立つ』～多様性の共存は総論（普遍性）を前提に、ローカルに考えグローバルに活動をする～」と題して、基調講演を行いました。「多様性の共存」という AMDA の活動理念の下、人道支援の三原則に加え、プロジェクト実施の三原則「開かれた相互扶助」、「パートナーシップ」、「ローカルイニシアチブ」について、様々な国や地域での支援活動を紹介し、「知識は他人の経験に過ぎない。充実した人生を生きるためには、知識を超えた『知恵』が必要。知識を『知恵』に昇華するために大切なのは経験だ」と語りました。

＊肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（well-being）にあること　　（AMDA 理事　難波　妙）

感染症対策の専門家をパプアニューギニアに派遣

昨年 12 月から今年の 2 月中旬まで、AMDA は GOARN からの要請で、感染症対策の専門家として岡山大学病院の萩谷英大医師をパプアニューギニアに派遣しました。GOARN とは世界各地で感染症が発生した際に専門家を派遣する枠組みで、WHO とそのパートナー機関が中心となって運営されています。

今回の派遣は、現地医療機関や当局の医療部門と協力して、医療従事者を対象に基本的な感染対策指導やワークショップを行うことが目的でした。一方、パプアニューギニアはこの時期長期休暇期間にあたり、また現地特有の組織構造も手伝って、計画の変更に適宜対応せざるを得ませんでした。萩谷医師いわく、「非常にチャレンジングな国であるということを聞いていたが、まさにそれを実体験した派遣だった」ということです。そんな難しい状況の中、萩谷医師は、政府発行の感染症対策ガイドラインに関して、専門家の見地から助言を行い、この点に関しては一定の成果を上げることができたということです。

（AMDA 本部　近持 雄一郎）

フィリピン台風 22 号（オデット）緊急救援活動

2021 年 12 月 16 日、強い勢力を伴う大型の台風、台風 22 号（オデット）がフィリピンに上陸し、同国中部のシアルガオ島を皮切りに、ボホール島やセブ島などに甚大な被害をもたらしました。12 月 19 日時点での被災世帯数は 18 万世帯にのぼり、実に 70 万人以上が被災しました。今回、AMDA は AMDA フィリピンや現地協力団体とともに緊急救援活動を実施。医療支援ならびに救援物資の配布を行いました。とりわけフィリピン海軍や海軍予備役との連携が功を奏し、離島を含む各島々への効果的な支援を実現することができました。

人災や自然災害は、時に子どもたちの心身に長期的な影響をおよぼします。今回の救援活動では、物資支援とともに、複数の団体から集まったボランティアによるマジックショーなどが行われました。子どもたちは笑いを分かち合いながらパフォーマンスを楽しみました。児童を対象とした救援活動は、今年 1 月末に南レイテにあるピントゥヤン（Pintuyan）、サンフランシスコ（San Francisco）、リロアン（Liloan）の三つの町で実施されています。これら一連の活動はキャラバン隊という形で継続され、3 月現在も行われています。

（AMDA 本部 近持 雄一郎）

沖縄県要請・新型コロナウイルス感染症医療支援活動

2021 年末より沖縄県では新型コロナウイルス感染者数が急増し、クラスターも発生。この深刻な状況を受け、沖縄県は AMDA に看護師派遣を要請。AMDA は 1 月 17 日から 22 日まで AMDA 緊急救援ネットワーク登録看護師一人を沖縄県へ派遣しました。沖縄県の指示のもと、看護師は、主に施設内のゾーニングなどの環境整備（レッドゾーンや濃厚接触者部屋などのマーキング、防護服装着場所の設置など）、施設職員を対象とした感染対策指導（手指消毒の徹底、防護具の装着方法、ゴミや残飯処理方法の指導など）などを行いました。

派遣を終えた看護師は、「今回の支援では、保健所で保健師やコロナ対応病院の医師と連日ミーティングを行いながらチームで連携し活動した。感染拡大のスピードがはやいので職場や施設、家庭での感染対策を正しく理解し継続できるようわかりやすく伝えることの重要性を改めて実感した」と述べました。

（AMDA 本部 アルチャナ ジョシ）

インド・ビハール州ブッダガヤ：妊婦さんへの健康相談および食糧支援

インド・ビハール州ブッダガヤで母子保健事業を実施している AMDA ピースクリニック（APC）では、妊婦さんの健康相談を行っています。以前、ブッダガヤでは妊婦の方の健康について相談する場所がなかったため、妊婦さんの栄養不足、衛生環境が課題となっていました。APC で、無料で妊婦さんが健康相談を受けることができるようになってからは、妊娠中の健康上の問題が軽減され、正常な分娩が増えたというお声を多くいただいています。

2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大によって行われた都市封鎖や外出禁止令の中、職を失う人々が増加し、再び妊産婦さんの栄養不足が課題となりました。その為、AMDA は妊婦さんと APC 元職員が運営する「お年寄りの家」に日常生活でよく使うレンズ豆 1.5kg、ひよこ豆 500g、ジャガイモ 1kg、玉ねぎ 1kg、塩 500g、調理油 500ml、小麦 5kg（小麦は政府からの支援を受けていない方のみ）の食糧支援を行いました。

現在は外出等の制限もなく、市民は普段通りの生活に戻っています。仕事を失っていた人も元の仕事に戻ったり、新しい仕事に就いたりしています。その為、3 月末で AMDA が行ってきた月二回の食糧支援は終了することになりました。今後、健康相談は継続して行い、新型コロナウイルス感染拡大前に実施していた栄養指導、医療スタッフによる在宅訪問を再開する予定です。

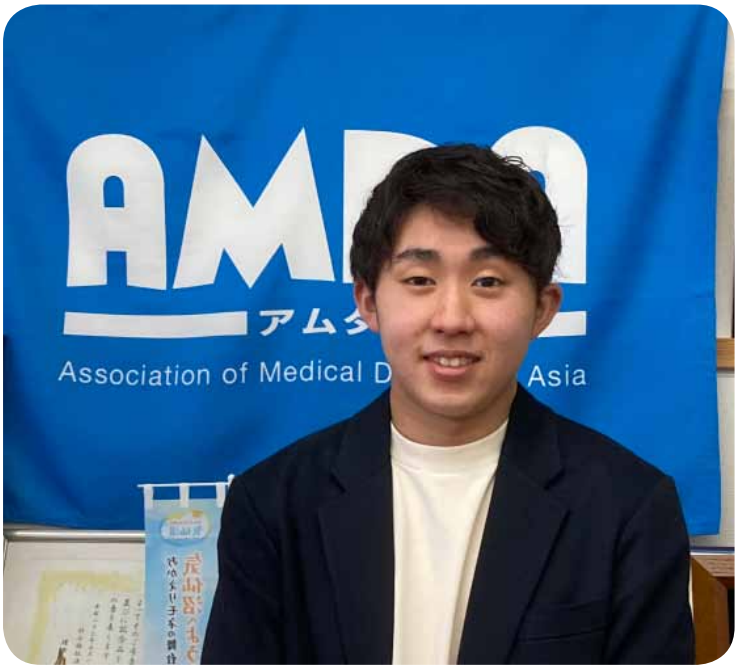
（インド担当 アルチャナ ジョシ）

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第32回
AMDA中学高校生会チーフコーディネーター　常原　拓真 様

AMDAを支えてくださっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。
今回は、AMDA中学高校生会チーフコーディネーターの常原拓真様（以降敬称略）です。
（聞き手：AMDA本部 ブルックス 雅美、アルチャナ ジョシ）

AMDA　中学時代から入っているAMDA中学高校生会（以下、中高生会）での活動について教えてください。

常原　AMDA職員でもあった英会話の先生より勧められ入会しました。2016年から3年間、毎年スリランカの平和構築プログラムに参加し、言葉も宗教も違う民族の学生たちと3、4日間寝食を共にしました。言葉は通じませんが、様々な宗教施設の訪問、日本の文化として自分の「篠笛」を通した交流、そして私は写真担当だったのですが、カメラを向けると笑顔を向けてくれることなど、こうして交流が深まりました。この時に感じた「平和」とは、日常通りに暮らせる「何もないこと」だと感じました。



AMDA　中高生会での経験を卒業後どのように活かされていますか？

常原　今年から大学でも防災について学んでいますが、日本の防災を途上国に広げたいと考えています。また、2021年5月、中高生会卒業生だけでなく全国の学生たちと、防災や環境問題など、「名前も顔も知らない誰かとともに次の未来へ」をコンセプトに「AMDA学生会」を発足しました。中高生会は高校卒業後、関わりがなくなってしまいますが、学生会を通して大学生として学んだことを中高生たちとも共有できればと思っています。これまで中高生会の定例会でワークショップを実施し、今年2月のバングラデシュとのオンライン交流会でもサポートとして参加しました。これからも中高生会と学生会が日常的に話せる活動ができればと思っています。

AMDA　募金活動やジャーナル発送準備など、今でもボランティアとしてAMDAにご協力いただいています。ありがとうございます。

常原　中高生会のリーダーとして全員の意見を取り入れられるようになったこと、活動などを通し日常を写真に収める大切さに気付けたことなど、AMDAで得られた経験が大きく、今の大学を選ぶきっかけ、自分のやりたいことにもつながっている部分が多くあります。これからもAMDAの活動と連携しながら、中学生・高校生のやりたいことや思いを形に出来るよう、コーディネートしていきます。

AMDA　これからどんな人間になりたいですか？

常原　「何かやりたいと思っている人」と、「やってほしいと思っている人」をマッチングしていきたいと思っています。今まで自分がいろんな人と関わり、いろいろなことをやってきたネットワークを活かしていくことで、面白いことが生まれるのでは、考えています。

東日本大震災復興支援事業：生活協同組合おかやまコープとオンライン交流会開催

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、おかやまコープの組合員の皆さんのご協力により、現在まで数多くの継続したご支援をいただいております。

今年の 1 月と 3 月に、計三回、岩手県大槌町の AMDA 大槌健康サポートセンターならびにおかやまコープ組合員の皆さんとオンライン交流会を実施し、AMDA 大槌健康サポートセンター長の佐々木賀奈子さんから大槌の現状と復興についてお話しいただきました。

佐々木さんは、「AMDA の支援活動とその思いが大槌に届いており、AMDA とおかやまコープさんに感謝している。震災後 11 年が経過したが、深い思いが積み重なり、根っこが強く、踏ん張れるようになった」と語りました。

AMDA 大槌健康サポートセンターでは、事業の一環として " さをり織り " 教室を行っています。交流会の後半では、このさをり織りのティッシュケースづくりを実践しました。

■参加された方々の感想をご紹介します：

・「震災を自身の中で風化させないためにも、また今必要な防災の意識を喚起するためにも、とても有意義なものでした。年に一度は聞きたいお話です」

・「佐々木センター長のお人柄が素敵だなと感じました」

・「交通手段や小さい子を連れていくことを考えると、Zoom での開催はありがたいです」

・「私は岩手県出身で、写真を見て変わり果てた町の様子に心が痛みました。電気のない中でも出来ることを始めたサポートセンターの方々はすごいと思いました」

・「さをり織りのティッシュケースは、手作りならではのぬくもりのあるいい作品ができました」

この他にもたくさんの感想や大槌へのメッセージをいただきました。ありがとうございました。

（AMDA 理事 財務会計 難波 比加理）

岡山県総社市の防災訓練に AMDA が参加

2022 年 2 月 22 日、岡山県総社市の防災訓練に AMDA から調整員 2 名が参加しました。今回の訓練は、震度 6 弱の地震を想定した緊急避難所の開設訓練です。2016 年の熊本地震で全国初となったテント村の経験をもとに、テント村開設運営訓練（20 張）や消防による救助救出訓練、医師会と消防による救護所訓練などが行われました。野外テントに設置された災害対策本部運営訓練では市長が指揮を執り、各担当者による非常事態を想定した情報収集等が行われました。

（AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部 本部長 大西 彰）

南海トラフ関連：倉敷中央病院勉強会＋徳島ウェブ講演会

倉敷市にある倉敷中央病院では、2022 年 2 月 8 日、職員を対象に南海トラフ災害対応に向けたオンライン講演会を開催。AMDA は昨年に続き、二回目の参加となりました。徳島県美馬市にある美波病院や医療法人芳越会、また倉敷中央病院と同じく、南海トラフ災害発生後に徳島県内に支援に入る予定のはくほう会セントラル病院、諏訪中央病院、諸國眞太郎クリニック、福山医療センターがそれぞれ参加しました。同じく 24 日には AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会の林秀樹委員長（ホウエツ病院理事長）らが座長を務め、徳島県西部災害医療ウェブセミナーが開催されました。

（AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部 本部長 大西 彰）

■気仙沼市商店街からの便り

東日本大震災から早11年が経ちます。商店街も4周年を昨年11月に迎えました。ただ、2020年にコロナが発生し、第6派まで2年3ヶ月、商店街も悲鳴をあげています。それでも何か取り組みをと考え、お客様から毎日の食費が大変だというお話をいただき、1年半前くらいから月に一度くらいの頻度で食品配布を行うことにしました。段々来てくれる人も多くなり、「みんな本当に大変なのだなあ」と感じています。また、商店街でも「大変だ」とばかり言っていられないので、この機会に商店街29店舗のお店をお客様に知ってもらうと共に集客を考え、各店の”おもしろポスター”を作成しました。思ったより評判がよく、集客にもつながっています。また、ポスターは5月の連休までにはラミネートをし、商店街内に一堂に貼り出す予定です。（気仙沼市南町紫神社前商店街事務局・AMDA参与 坂本 正人）

■ NPO法人仙台夜まわりグループの協力による東日本復興支援事業

AMDAは、ホームレス支援として仙台に米や肌着、タオルの生活物資支援を続けています。コロナ禍で様々な理由から路上生活に陥ってしまった方々が増加傾向にあり、NPO法人仙台夜まわりグループは、「ホームレス支援は命に関わる急を要する必要不可欠な活動」として今日の一食を提供し、緊急相談への対応を継続しています。

路上生活者、生活困窮者を対象に、弁当、カレーライスの炊き出し、おにぎりなど、年間およそ3,000食を提供するほか、肌着などの生活物資、シャワーを利用する機会なども提供しています。特に厳冬期は、路上で凍死、衰弱死という悲しい出来事が起こらないよう、居場所や食の提供を行っています。

＊「コロナ禍で個人商店は倒産。居場所がなくなり、まさか自分がホームレスになろうとは思いもしなかった。こんなはずではなかったのに」（30代男性）＊一番弱い立場にあり、命の危機に晒されている人たちに少しでも希望が持てる社会になるよう支援を続けていきます。

（AMDA理事 財務会計　難波 比加理）

■子ども食堂へ支援物資を贈呈

1月21日に岡山県内の子ども食堂14団体に支援物資を贈呈いたしました。今回は、NPO法人フードバンク・グッドフェイス様からお米200キロ、福電資材株式会社様より小学英語AI学習ロボット、岡山ハーモニーライオンズクラブ様より調味料、カップ麺などの食糧をご支援いただきました。子ども食堂からは、「コロナの中、仕事が減って大変な思いをされている家庭に物資を大切に届けさせていただきます。いつもとても喜ばれます」、「食堂でいただくお米をもって帰り『おいしかったぁ～』の声。笑顔と笑顔を繋がせていただくことも感謝です」などのお声をいただきました。

子ども食堂に物資をご支援くださいました団体様、企業様の思いが多くの子どもたちに伝わり活かされますよう願うとともに、厚く御礼申し上げます。

以下、物資をご提供くださった団体様からのメッセージをご紹介します。

◇NPO法人フードバンク・グッドフェイス様：

「主食となるお米を子ども食堂の人たちに役立てていただけたらと瀬戸内市ふるさと納税返礼品を利用して支援いたします」

◇福電資材株式会社様：

「本ロボットは、小学英語に特化したバージョンです。食堂に集まったお子さんが毎日1トピックでもやっていただき自然と英語の力がつけば開発者冥利に尽きます。ぜひ楽しくご活用ください」

◇岡山ハーモニーライオンズクラブ様：

「私どもは、結成されて7年ですが、結成当初から子どもの福祉に取り組んで参りました。近年は、お蔭様でアムダ様とのご縁をいただいたことで子ども食堂への支援活動が有効に、そして、スムーズに取り組むことができ、大変ありがたく感謝しております。今年もふるさと納税に参加し、返礼品の食料品を取りそろえることができました。子ども食堂の子どもたちが、笑顔で希望に満ちた生活が迎えられますことを心より願っております」

（AMDA理事 財務会計 難波 比加理）

「魂の授業」 ― 岡山市立幸島小学校にて ―

AMDA ボランティアセンター事務局長 竹谷和子儀、かねてより病気療養中のところ、去る 1 月 26 日に逝去いたしました。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともにご冥福をお祈りし、謹んでお知らせいたします。

生前 1 月 14 日､竹谷は岡山市立幸島小学校の 6 年生 13 人を対象に、「AMDA の目標および仕事について」と題した特別授業を行いました。

長年県内の中学校の教員として多くの生徒たちと向き合ってきた竹谷の「どんどん声をかけていくから返してね。OK ？」という大声で授業開始。「平和とは何ですか？」という竹谷からの問いに、生徒たちは思い思いに回答しました。 竹谷は、「回答してくれた人、そして手を上げられなくても、みんな目をキラキラさせて考えてくれたことがよくわかる。本当に素晴らしい」と、拍手とともに、生徒全員を賞賛しました。

さらに、国内外で自身が経験したことを出来る限り伝え、竹谷の大声の「OK ？」と生徒たちの「OK ！」のかけあいが幾度も繰り返されました。特にこの授業で最も伝えたかった、「『助けてあげる』ではなく『助け合う』」という相互扶助の精神にも、生徒たちは強く同意していました。

授業終了後、竹谷自身は ” 無事に終えることができた ” とやり切った様子で話しました。後日送られてきた生徒たちからの感想文には、AMDA のことはもちろん、「『助けてあげる』は上から目線でえらそうな感じがするから、『助け合う』というほうがいいと思った」などと書かれてあり､竹谷が心から伝えたかった想いはきちんと届いていた様子でした。まさに、これが彼女の最期の授業、「魂の授業」となりました。　（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

AMDA 平和構築プログラム『*Online Forum for World Peace from Bangladesh and Japan*』

2022 年 2 月 27 日、AMDA 中学高校生会による平和構築プログラム、『バングラデシュと日本の学生によるオンライン平和構築フォーラム』が開催されました。当日は、AMDA 中学高校生会（以下、中高生会）から 6 名、バングラデシュからは大学生が 8 名、司会や通訳として AMDA 学生会の大学生 4 名が参加。各国の活動の紹介後、日本からは折り紙や歌の披露、バングラデシュからは国花や文化遺産の紹介がありました。その後、「ジェンダー平等」、「貧困」、「災害」をテーマに各々の考えを共有する意見交換が行われました。

すべてのプログラムは原則英語で行われましたが、後半のディスカッションでは、より深いコミュニケーションを目的として、中高生会は日本語で行い、日本人大学生が通訳に入りました。内容をより深く理解した上で、積極的な意見交換が行われました。言語、文化、社会、環境など全く異なる国で生活している学生たちが平和構築のために自分たちが出来ることを考え、お互いを刺激し合えた良い交流会でした。この交流会を通じて学んだことは、今後の世界平和の実現に繋げていただければと思います。　（AMDA 本部 アルチャナ ジョシ）

日本災害医学会総会・学術集会にて発表

第 27 回日本災害医学会総会・学術集会が広島国際会議場にて対面とオンラインで行われました。

3 月 3 日のポスターセッションでは AMDA 職員のアルチャナ･ジョシがオンラインにて、「災害支援における大学との連携」について発表しました。

防災に対する意識を高め、災害時に様々な活動を通じて社会貢献できる次世代教育が重要な課題となっている中、大学と NGO が連携し、災害支援における協力体制の重要性について語りました。

（AMDA 本部 アルチャナ ジョシ）